

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300409		
法人名	株式会社 ワークサポート		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	紋別郡遠軽町大通南2丁目1-21		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「笑顔あふれる暮らし」を日々の生活の中に自然に現れるよう、入居者様それぞれの意向、想いを汲み取りそれぞれが自分らしく暮らせるような対応に努めています。介護職員へは日々向上心を持って務められるよう、また専門職への質の向上が図れるよう、地域での研修や町外の研修へも積極的に参加できるよう支援し、入居者様へ還元できるよう努めています。立地している環境からは商店街のため、買い物や商店街のお祭り、千人踊りの観覧等も入居者様に負担を少なく参加してもらえます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://ku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0175300409-00&amp;Serv">ku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0175300409-00&amp;Serv</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年10月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平成17年開設の2階建て2ユニットで、国道沿いの中心部の商店街に位置しています。「笑顔あふれる暮らし ありがとうという感謝の心 共に感じ、共に生きる寄り添い 自分らしく暮らせる空間」の理念を基本に日々利用者とのコミュニケーションを図り疎外感を持たないように毎日笑顔で暮らせるように利用者本位を目標に取り組んでいます。利用者の信頼関係を構築し筆談で意思疎通を図るまでになった職員の葛藤など日々利用者のことを思い生活改善に努めています。運営推進会議に複数の家族の参加があり活発な意見交換を行い意見をとり入れた運営を目指しています。懐かしい町のイベント等を見学し利用者を楽しんで頂く機会を設けています。また、事業所の周りを散歩したり体操や身体を使うレクリエーション、簡単な計算等を取り入れた脳トレを行い生活維持能力に努めほとんどの利用者はリビングで思い思いに過ごしています。利用者一人ひとりに出来る事をお願いし”ありがとう 感謝の言葉”とともに励みになるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を事務所、各ユニットの見える場所に提示している	理念は事業所の目に付く所に掲示し、職員には振り返りを促しています。管理者は日頃から利用者との会話やコミュニケーションを図るよう指導しており職員は利用者本位になるように心掛けています。パンフレットにも記載しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加したり、清掃、花壇整備に参加するなど地域の一員としての交流がある	自治会に加入し、管理者は総会に出席し情報交換しています。また、自治会の花壇植え替えのお手伝いに利用者や参加したり、町主催の千人踊りやお神輿、ハロウィンパレードなど慣れ親しんだイベントを見学するなど交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にあさひ通信を発信し、認知症の理解や支援方法、日々の過ごし方を載せている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員の方に参加していただき、施設での取り組みを報告している。	運営推進会議は年6回奇数月で実施しています。町担当職員、地域包括センター職員、地域代表、事業所管理者、家族の出席を得て利用者状況・活動報告の中活発な意見交換が行われ運営に反映しています。議事録は全家族に配布して理解・周知に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所として判断しにくい事などは随時相談をしたり、また、町内の困難な事例について事業所として対応がどこまでできるかなどの相談を受けたりと密に双方で連携が取れている。	運営推進会議に出席を頂きながら、事業所の実情に理解を得ています。情報交換やわからない事、苦情等相談等の指導を受けながら良好な関係構築を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、指針の見直しや身体拘束廃止に向けた研修等を行い、職員全員で意思統一しケアに取り組んでいる。	年4回、身体拘束廃止委員会の実施し研修を行い身体拘束の弊害の周知と理解に努めています。また、管理者は日常的に使ってしまう言語について置き換えを行うようにユニット会議や日常的に指導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで不適切なケアがないかを話し合っている。特に目に見えにくい職員からの言葉使いが虐待につながらないか話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいる。制度を理解している職員は少ないので、権利擁護の研修に参加して職員の理解に繋げ入居者の支援に結びつけていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族への面談を重ね、前もって施設を見学していただき、納得したうえで入居していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活での会話の中で把握に努めている。ご家族には生活状況を定期的に送付し、生活の状況を把握してもらい、何か意見、相談があれば随時連絡を取れるよう関係を築き、運営に反映できるよう努めている。	事業所での面会は事前予約・家族2人まで・玄関面会・10分程度で家族の協力の基で現在も制限をして実施しています。利用者の様子は3ヶ月の1回、通信便りを送付したり電話や直接訪問時に伝え、意見や要望もその都度伺い職員間で情報を共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中から意見等ないか聞いたり、ユニット会議を通じて要望がないかを聞き連携をとっている。	主に職員の積極的な意見はユニット会議で掌握し利用者の生活改善に努めています。日常的に個人の悩みや要望を聞き取りストレス解消に努めながら実現出来るように支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた人数の中で、勤務の調整に努めている。個別評価や個別目標シートを実施し努力や実績が反映できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は外部への研修の機会は少ないが、代わりに施設内研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や会合等があれば参加し、情報交換を行い、参考に出来るものは取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報をもとに入居後ご本人が不安に思っている事や困っている事等耳を傾け安心して生活出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学に来られた時や入居時に、ご本人、ご家族の不安、要望等を聞いて、ご家族との信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に不安や混乱、精神的に不安定な状態にないかを観察し、職員間で情報共有し必要なケアを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように共に利用者様と職員が一緒になり生活が送れるような関係性になれるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が本人のためとなる支援を心掛けている。ともに本人を支えていく関係作りに務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、昔からの友人、知人の面会を大切にしながら交流が途切れないようつながりを継続的に出来るよう努めている。また、地域とのつながりを大切にしながら行きつけの美容院へ継続して行けるよう支援している。	受診の際は家族と一緒に買い物や食事を楽しんだり、外泊希望も叶えたり、馴染みの美容室に出掛けたりと家族や今までの関りを大切にしています。新聞購読、習慣の飲み物などは利用者・家族の要望に沿って支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分等で変化があるので、全員が関わり合う関係は出来ていないが、職員が間に入り利用者同士の関係が良好になるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報の管理を徹底したうえで、退去後も、家族から相談があればそれに合わせた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや願いが何かを本人の言葉や表情の中から把握に努めている。	利用前の生活を基本に利用者本人の維持能力を見極めながら、出来る限り本人本位で見守るように支援しています。自己決定出来るように一緒に服の選択や運動・お手伝いを行うことで自信とやる気に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や本人、家族からの思いを汲んで本人が施設での生活に慣れていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録される生活記録、申し送りで現状の把握に努めている。職員間で共有し支援に活かすことが出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、担当職員の意見やアイデアを取り入れやすいようにユニット会議で意見交換し、計画書には生活記録にも添付されている。	基本6ヶ月に1回見直しを行っており、定期的にモニタリングを行い評価して利用者が目標を達成出来るように努めています。ユニット会議では利用者の生活改善に努めより良い生活を送れるように取り組んでいます。日々の様子などはタブレットを活用し記入する事で仕事の効率化に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事、水分、排泄等記入、また、生活記録には計画書が添付されており、職員の気づきや実施した事が記入されているので、見直しがしやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々要望に応えることができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会にも参加し地域住民と交流が図れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。主治医への状況報告や指示受けを確実に、医療関係との関係作りを努めている。	希望する係りつけ医への受診は事業所に対応しており、遠方での受診は家族にお願いしています。訪問診療は1ヶ月に1回、訪問看護は週1回来所され利用者の健康管理を行い家族の信頼・安心に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や訪問診療の医師と情報の共有を行い相談できるよう関係性があり適切な受診や看護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書を作成し、利用者の情報提供を行っている。退院にあたっては医療機関より情報を得られる関係性を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認をしてその時々状況変化に応じた話し合いを家族と共に行い、ホームで出来る限りの支援をしていく。	訪問看護師による看取りの内部研修を行い体制を整え昨年初めて利用者・家族の希望で看取りを行っています。職員のアフターケアは管理者が個別に対応しています。主治医・看護師・職員の連携を図りながら利用者家族の意向に添い事業所が出来る可能な範囲で支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて、緊急時対応について学ぶ機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、通報設備等を使用し夜間想定訓練を行っている。運営推進委員会の方にも消防訓練に参加していただき意見を取り入れている。災害時の停電に備え発電機を整備している。	年2回夜間想定で消防署立会いの基で、通報・避難訓練を実施しています。実施後は総評・反省点を踏まえ課題に取り組んでいます。備蓄は暖房を主にポータブルストーブやカセットコンロなどを用意し停電時の照明などは主に発電機を活用しています。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する時は一声かけて確認を取ってから入室する。排泄の確認時は、尊厳を守り羞恥に配慮した声かけをするよう心掛けている。	利用者の尊厳や誇りを尊重した支援を心掛け、呼び方は基本苗字や下の名前のさん付けで呼んでいます。利用者本人が受け答えの出来る呼び方を家族の了承を得て行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望、願い、、持っている力を使い本人の自己決定が出来るよう、声かけの中から生活習慣などや好みなどを表情や本人の言葉で読み取り支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴の日は決まっているが、体調には配慮し、その人のペースに合わせてよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんに来てもらったり、病院受診の時などは衣類は本人の希望を聞いたり、一緒に選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行ったり、季節感が感じられるよう旬のものを取り入れるようにしている。会話も楽しめるような食事の時間が取れるよう心掛けている。	法人からの献立表に添い、職員が食材を購入し調理し、各利用者の状態にあった安全な形態で食事を提供します。気温や利用者の体調面を考慮しながら臨機応変に変更したり、家事に関わる仕事をして頂きながら、利用者が楽しんで意欲的に食事が出来るように配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録に残し必要な栄養、水分の摂取が確保できるよう支援している。好みや食べられないものを把握し調理するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は口腔ケアを声かけし、仕上げが必要な方は一部介助か介助をしている。歯ブラシが難しい方は歯磨きティッシュを使用して口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、排泄の間隔を把握し、トイレ誘導や声かけを行っている。	トイレでの排出を基本に、排出チェック表などを把握しさり気ない誘導を行っています。夜間はポータブルトイレ使用の利用者もいますが、職員は利用者の自尊心ややる気を妨げないように自立支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記入して排便の間隔の把握をして全職員が対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴する日は決まっているが、その日の体調により日程をずらすなどして柔軟に対応している。	週に2~3回、利用者の体調や希望に沿いながら入浴を支援しています。入浴剤を使用し職員と会話をしながらゆったりとリラックスして頂けるよう心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は無理のない活動を行う事で生活のリズムを作り安眠につなげるようにしている。日中でも1人1人の体調に合わせて負担のないよう休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の処方箋をファイルして、内服薬の理解に努めている。薬の変更があった時は、申し送り内服後の状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活履歴や職歴などで、やりがいを感じていただくことの出来る役割やレクリエーションを楽しみながら張り合いのある生活を送れるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で日常的な外出は行っていないが、天気の良い日に施設の周りなどをスタッフと一緒に散歩することで季節の移り変わりを感じて頂いている。	利用者の体調に合わせて事業所の周りを散歩しています。町のお神輿等のイベントを見学して楽しんでいます。事業所内でレクリエーションや行事を行い気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお金は職員が管理し、利用者の必要なものだったり、希望するものは買い物の際に理解を得る働きを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の中でリモート面会を行ったり、感染状況に合わせて対面の面会に対応し、希望があれば家族との電話の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がくつろげるような空間作りを心がけている。また、気温に応じて温度、湿度調整に努めている。	共同空間は季節ごとに利用者との共同作品や職員の手作りの物が飾られています。体操や身体を使ったレクリエーション、脳トレを行い残存能力維持に努めています。殆どの利用者は居間で過ごすことが多く、テレビ鑑賞、談笑など思い思いに寛ぎ過ごしやすい場所となっています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには利用者の関係性に配慮しソファやテーブル席を配置し、思い思いの場所でリラックスして過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れているものを持ち込んでいたり、その人らしく過ごせるように支援している。	居室にはクローゼットを設置され利用者は使い慣れたベットや机、冷蔵庫、テレビなどを持ち込み家族写真を飾ったりマフラーを編んだりと入居前の環境に近くなるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに出来ることを積極的にして頂くよう声かけしている。家具の配置を工夫して安全に過ごせる環境づくりを行っている。		